2026年9月10日

各位

株式会社フジ・メディア・ホールディングス
株式会社フジテレビジョン

サステナビリティ経営委員会
第14回外部アドバイザリーボードの開催について

当社子会社の株式会社フジテレビジョン（以下、フジテレビ）は9月4日、サステナビリティ経営委員会の第14回外部アドバイザリーボードを開催いたしましたので、お知らせいたします。

１．9月4日開催の第14回外部アドバイザリーボードの内容

フジテレビは、社内対話を通じて組織内の「壁」を取り除き、相互理解を深めることで「共創」を実現する姿を目指しています。今回の会議では、その方向性と実現に向けて必要となる施策について、アドバイザーの皆さまに説明いたしました。今後は、これまでの取り組みによって築いた土台を基礎として、学びを日々の業務に落とし込み、実践していく「実装」のフェーズへと移行してまいります。

大崎麻子氏（ジェンダー専門・国連女性の地位委員会 日本代表）
「これからのフジテレビにとって、価値創出の源泉は『人』であり、人権とサステナビリティこそが、これからのビジネスを支える基盤である。人権は、リスクを低減するためだけではなく、クリエイティビティを支え、新たな価値を創出するためのビジネス基盤として位置づけられるべきである。ロードマップで『対話から共創へ』という方向性が示されたことは、大変重要な一歩である。次のステップとして、『共創』が実現している状態とはどのような状態を指すのか、その姿を具体的に定義することが重要である。そして、それに向けて、組織やマネジメント、現場にどのような行動変容や成果を期待するのか、それらをどのように確認していくのかをあらかじめ設計し、着実に実装を進めていくことを期待する」

加藤茂博氏（人的資本経営専門・元リクルート ビジネスプロデューサー）
「これまでのフジテレビでは、丁寧な説明や情報共有が十分ではなかったように思う。情報を共有しないことは、部下やビジネスパートナーを信頼していないことにもつながる。この一年は、過去の課題解決から未来の戦略実現へ重点が移り、『共創』や『実装』を実現するためには、「実現したい変化をより丁寧に説明」し、不安を払拭するだけでなく、そこに一緒に向かいたいという気持ちを抱かせなければならない。そのためには、メンバーに

説明がされているのは前提条件であり、変化を起こす必要条件である部局の壁や社外との壁を越えたコミュニケーションを実施できている割合を戦略的KPIとしてモニタリングしながら改善を図り、意図的に変化を起こす支援を戦略的に実施する必要がある」

佐藤暁子氏（弁護士・ビジネスと人権専門）
「対話を通じて得られたフィードバックを施策に反映するプロセスをしっかりと構築し、その仕組みを組織に定着させることで、人の入れ替わりがあってもアカウンタビリティ（説明責任）が担保される。そのような仕組みづくりをさらに強化してほしい。また、施策の進捗や実効性を継続的に確認するためのモニタリング指標についても検討してほしい」

２．今後に向けて

第14回外部アドバイザリーボードで得られた助言等を踏まえ、新体制で推進すべき施策を実行に移してまいります。
外部アドバイザリーボードは今後も継続的に開催し、外部有識者から得た助言等を、各種施策に反映していく方針です。

以上